

戦争という非人間性への想像力について

校長 城 美博

今から76年前の昭和20年8月9日午前11時2分、長崎市に原子爆弾が投下されました。その3日前には広島市にも原子爆弾が投下されており、この二つの都市は、それによって壊滅的な打撃を受けました。そして昭和20年8月15日、我が国は敗戦を迎えたのです。

戦後76年を経て、戦争当時を知る人々は次第に少なくなり、リアルな記憶としての戦争体験は、ほんの一部の人しか語れなくなりました。戦争の記憶は次第に風化しており、私たちは事実としての戦争は知っていても、そこで何が起こったのか、想像力をはたらかせなければなりません。

私は大学で近代日本文学を専攻し、特に昭和10年代から戦後にかけての文学作品を研究の対象としました。そこには戦争についてのおびただしい作品群があり、戦争というスコープを通して見た様々な人間の姿に、間接的にはありますが、触れることになりました。

たとえば、大岡昇平の「野火」「俘虜記」での極限状態の兵士の姿、野間宏の「真空地帯」での軍隊という個人を圧殺する組織、安岡章太郎の「悪い仲間」での招集前の学生の屈折した心理、菊村到の「硫黄島」での戦後年月を経ても戦争体験をひきずる男の姿など、異様に緊張し、ねじ曲げられ、不自然に歪み、人間として当然持つべき感情を押し殺された人々の姿が、そこには描かれています。もちろん、原爆を題材とした作品も、数多く存在します。

そこには、真なるものを探求し、善きことを願い、美しいものを追い求める人間や、愛を語り、将来にあこがれ、理想を胸に生きていく人間の姿はなく、ぎりぎりまで追いつめられ、人間らしい感情をはぎ取られて、本能のままに行動する人間の姿が、むき出しの形で示されています。

それに加えて、まるで虫けらのように命を奪われる人間の姿も登場しています。古山高麗雄という作家は、一兵士として南方戦線に従軍しましたが、ある作品の中で、「兵士は、戦場のまっただ中にいても、奇妙に自分だけは死なないという気持ちを持っているものだ」という趣旨のことを書いていました。しかし、そう思いながらも、次の瞬間にはあっけなく死んでいった人間が、いったいどれほどたくさんいたことでしょうか。家族から遠く離れた南の島で、あるいは凍えるような北の大地で、むなしく土に帰っていった命がどれくらいあったことでしょうか。さらに、戦時下とはいえ平和な日常の中で、突然命を奪われた一般市民が、どれほどいたことでしょうか。

かつて私たちの同胞が、そして世界中の人々が、戦争という非人間的な暴力のために、人間としてのささやかな幸せを受け取ることさえ禁じられてしまったことに、私たちは気づかなければなりません。また、現在も世界のどこかで、戦争や紛争状態の地域があることも、私たちは忘れてはなりません。

生徒の皆さんは、長崎原爆の日、そして終戦記念日などをとおして、かけがえのない人間の命がきわめて軽く扱われる戦争の非人間性や原爆の非人道性に思いを馳せるとともに、人間の命の尊さについて、想像力をはたらかせてほしいと切に願います。

（注：この稿は、8月9日（月）の平和学習での、校長講話の一部です）

3学年 校内学習会 ～進路実現に向けて一心不乱～

7月31日（土）から8月5日（木）までの6日間の日程で3学年の学習会を実施しました。昨年度に引き続き校内での実施となりましたが、一日9時間弱の自学と質問教室に真剣に向き合っている姿が印象的でした。1日には、4月に続きベネッセコーポレーション顧問の田川祐治先生に「受験生として意識すべきこと やるべきこと」の演題で激励の講話をしていただきました。先生がおっしゃった「話しかけようとしても あまりに真剣な その後ろ姿 その後ろ姿に学ぶ」の通り、56回生の仲間同士が無言の中にも切磋琢磨する貴重な機会になったと思います。ここに身につけた学習中心の生活リズム、自学力を今後もしっかりと継続して入試本番に立ち向かってほしいと思います。

がんばれ56回生！

なお3日には3学年育友会からお菓子と飲料の差し入れまでいただき、生徒の励みとなりました。改めて御礼申し上げます。
【第3学年主任 戸塚 邦彦】



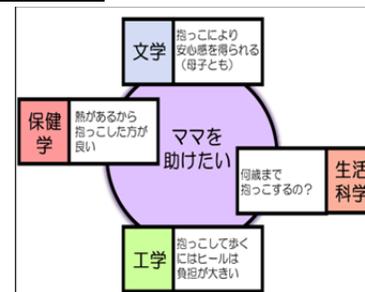
総合的な探究の時間 活動報告・今後の展望

2学年

昨年度より「ふるさと創生」に取り組んでいる57回生ですが、フィールドワークを通して、ネットの情報や資料では得られなかった気づきや発見、新たな疑問、仮説が生まれ、試行錯誤しながら探究活動を深めてきました。地域活性化を目標に、飲食店とのコラボ商品の開発・販売を実施した班や、佐世保の魅力を海外に発信させる狙いが、市役所との連携を生んだ班もあります。計53班にも及ぶ取り組みの学年発表会が、いよいよ8月19日（木）に実施されます。高校生ならではの視点で探求してきた独創的なアイデアを期待しています。この学年発表会で高評価を得た班については西高祭での発表や校外のコンテストにも応募する予定となっています。

【第2学年主任 萩原 広太】

1学年



58回生の4月～6月の総合的な探究の時間は、「ミニ探究」と題して、日常から課題を見つける「問題発見プログラム」、課題を見つけ、分析・解釈し解決策を発想していく「問題解決プログラム」を行いました。その中で、自身の関心のある学問分野からの課題発見、解決を意識して思考を深めました。1つの問題を見つける視点においても、解決する視点においてもそれぞれの学問分野の視点があります。その基本的な見方を知る機会になったと思います。

また、7月から8月は、「データ分析プログラム」と題して探究に必要なデータ分析の基礎を学んでいます。7月には「物理」「化学」「生物」の実験を行い、グラフを作成しました。今後はそのまとめの活動を行った後、「地域創生探究活動」が本格化していきます。探究の学びは全ての教科の学びにつながります。考え方や、思考の流れを意識して日常の色々なことにおいても探究していきましょう。

*8月23日に、大正大学浦崎教授をお招きして「ふるさと創生」講演会を計画しています。



【第1学年主任 峯 悦子】

平和学習について

今年も、コロナウイルス感染症対策のため全校集会での形式ではなく、各教室で実施しました。NHKのHPで公開されている谷口稜嘩(ミテル)氏、片岡ツヨ氏の証言映像を視聴しました。



配付したプリントに、2人の生涯を記録した参考文献と「NHK 原爆の記憶 ヒロシマ・ナガサキ」について紹介しているので、貸与されたタブレットを利用して、視聴してみてください。



同HPでは、広島・長崎の被爆者のインタビュー映像(約170名分)を視聴することができます。中には、発言を文字データで読めるようにしているものもあります。旧ソ連・米・仏の核実験場周辺に居住し、放射能被害に遭った人々の証言映像もあります。

また、米国公文書館に所蔵されていた被爆者のケロイドのカラー映像や、両市の放送局が収集した「原爆の絵」を見ることもできます。「特集 広島原爆」では広島に残る被爆直後の写真と、その場面に遭遇していた生存者の証言を基に、当時の状況がCG動画として再現されています。

【キャリア支援部(研修担当) 江下 佳治】

一人一台PC配付について

8月9日(月)に、生徒用の1人1台PCを配付いたしました。当日は①使用上の注意事項、②PCへのサインイン、③Teamsの基本操作、④Classiへのログイン、⑤N-CHATへのログインについてガイダンスを行いました。このPCは毎日家に持ち帰ってもらうことになります。改めて、PCやスマホの家庭での使用のルールを設定していただき、学習に有効活用してもらいたいと思います。なお、落下等による故障が多発しています。取扱には十分に留意していただくよう、ご家庭でも注意喚起をお願いいたします。また、情報モラルやセキュリティへの配慮を忘れずに使用してください。



(授業改善PT/ICT推進委員)

第57代生徒会会長・副会長決定!

7月15日(木)、ウイングアリーナとダンス場で立会演説会を開きました。今年は生徒会長候補2名、副会長候補2名の選挙及び信任投票となりました。どの候補者も学校をよくしたいという熱意にあふれた演説でした。投票の結果、以下のように決定しました。

【会長】 永安 蒼天 (ながやす そら)
【副会長】 金子 明日美 (かねこ あすみ)
 松本 麗 (まつもと うらら)

《8月～9月中旬までの主な行事予定》

8/21	土	3年生大学別模試(九大プレ)
23	月	1年ふるさと創生キックオフ講座
9/2	木	体育大会予行
3	金	代休(9/4)
4	土	体育大会準備
5	日	体育大会
6	月	代休(9/5)
8	水	月曜授業
9	木	代休(9/11)
10	金	午後設営
11	土	西高祭(1日目)
12	日	西高祭(2日目)
13	月	代休(9/12)
14	火	月曜授業

新型コロナウイルス感染拡大にともない、今後行事が変更になる場合もあります

部活動結果報告

<陸上部>

○令和3年度佐世保地区高等学校新人陸上競技大会

女子総合 第1位

女子100m 第2位 岩永悠愛(1年)、第3位 竹内海加(2年)
 女子400m 第1位 庄村志帆(2年)
 女子800m 第3位 吉村小晴(2年)
 女子1500m 第2位 吉村小晴(2年)
 女子3000m 第3位 小川陽菜(2年)
 女子400mH 第1位 庄村志帆(2年)、第2位 西田侑良(2年)
 女子走幅跳 第2位 山口実来(1年)、第3位 松尾彩加(2年)
 女子走高跳 第1位 升水渚紗(1年)
 女子三段跳 第1位 山口実来(1年)、第2位 中竹海加(2年)
 女子砲丸投 第3位 岩永悠愛(1年)
 女子4×100mR 第1位 竹内海加(2年)、庄村志帆(2年)、小川久瑠美(1年)、岩永悠愛(1年)
 女子4×400mR 第2位 西田侑良(2年)、吉村小晴(2年)、小川久瑠美(1年)、庄村志帆(2年)

男子総合 第2位

男子100m 第1位 岩村勇希(2年)、第2位 中川穂泉(1年)
 男子200m 第3位 森豪太(2年)
 男子400m 第3位 青井颯汰(2年)
 男子1500m 第3位 下川希望(2年)
 男子110mH 第1位 加留部風(2年)
 男子400mH 第1位 青井颯汰(2年)、第2位 大谷朔乎(1年)
 男子3000SC 第3位 寺崎太一(1年)
 男子走高跳 第3位 関戸一路(2年)
 男子三段跳 第1位 加留部風(2年)、第3位 武井陸哉(1年)
 男子4×100mR 第2位 立石晏慈(2年)、中川穂泉(1年)、大谷朔乎(1年)、岩村勇希(2年)
 男子4×400mR 第1位 藤原一牙(2年)、加留部風(2年)、大谷朔乎(1年)、青井颯汰(2年)



<吹奏楽部>

○第66回長崎県吹奏楽コンクール 高等学校部門 銀賞

<その他>

○第71回社会を明るくする運動佐世保地区弁論大会
 佐世保市社会福祉協議会賞 2年 松本祥汰郎

○令和3年度国民体育大会第41回九州ブロック大会
 長崎県 少年女子団体 第3位 1年 坂本 真菜 → 国体出場